

# 改曆辨

福澤諭吉

青空文庫



大陽曆たいやうれきと大陰曆たいいんれきとの辨別べんべつ

此度このたび大陰曆たいいんれきを止やめて大陽曆たいやうれきとなし、明治五年十二月三日を明

治六年一月一日と定めたるは一年にはか俄にに二十七日の相違さうゐにて世間せけんに

これあやしものを怪おほむ者おもも多おほからんと思おもひ、西洋せいやうの書しよを調しらべて彼かの國くにに行おこなは

る、大陽曆たいやうれきと、古來こらい支那から、日本にっぽん等とうに用もちふる大陰曆たいいんれきとの相違さうゐを

示しめすこと左さの如ごとし。

大陽たいやうとは日輪にちりんのことなり。大陰たいいんとは月つきのことなり。曆れきとは

こよみのことなり。故ゆゑに大陽曆たいやうれきとは日輪にちりんを本もとにして立たてたるこ

よみ、大陰曆たいいんれきとは月つきを本もとにして立たてたるこよみと云いふ義ぎなり。抑そ

も此世界このせかいは地球ちきうと唱となへ圓まるきものにて自分じぶんに舞まひながら日輪にちりんの

まはり 周圍を廻ること、これを譬へば獨樂の舞ひながら丸行燈の周圍  
 を廻るが如し。獨樂の自分に一度廻るは即ち地球の自轉といふも  
 のにて、行燈の方に向たる半面は晝となり、裏の半面は夜  
 となり、この一轉を一晝夜とするなり。斯く獨樂の舞ひな  
 がら行燈の周圍を廻るは即ち地球の公轉と云ふものにて、行  
 燈を一廻まはりて本の場所へ歸る間に、春夏秋冬の時  
 候を變じ、一年を爲すなり。扨日輪の周圍に地球の廻る道は六  
 億の里數あり。この六億里の道程を三百六十五日と六時實は五  
 時四十八「ミニウト」四十八「セカンド」なれども先つ六時とす  
 るなりの間に一廻して本の處に歸るなり。即ち地球の自轉に  
 て云へば三百六十五度と、四半分轉る間に六億里の道を走るこ

となり。大陽曆はこの勘定を本にして日輪の周圍に地球  
 の一廻する間を一年と定めたるものなり。然るに此一廻  
 の間、丁度三百六十五日ならば千年も万年も同じ曆にて差  
 支なき筈なれども、六十五日の上端に六時といふものありて毎  
 年六時づ後れ、四年目には四六二十四時、即ち一日の後とな  
 るゆへ、四年目には一日増して其間に地球を走らしめ、丁  
 度本の處に行付を待つなり。即是閏年なり。右の如く大  
 陽曆は日輪と地球とを照し合せて其互に鈞合ふ處を以て  
 一年の日數を定たるものゆへ、春夏秋冬、寒暖の差、毎  
 年異なることなく何月何日といへば丁度去年の其日と  
 同じ時候にて、種を蒔くにも、稻を刈るにも態々曆を出して節

を見るに及ばず。去年の彼岸が三月の二十一日なれば今年ことしの彼ひ岸がも丁度ちやうど其日そのひなり。且毎年かつまいねんの日數ひかず同様どうやうなるゆゑ、一年と定さだめて約條やくでうしたる事ことは丁度ちやうど一年の日數ひかずにて閏しゆんげつ月の爲ために一いつ箇月つきの損徳そんとくあることなし。其外そのほかの便利べんりは一々計かぞへ舉あぐるに及およばざることなり。唯此ただこの後ちは所謂いはゆる晦日みそかに月つきを見ることあるべし。數かずを知らざる無學むがくの人ひとには、一時目いちじめを驚おどろかすの不便ふべんあらん乎か、文も盲んまう人の不便ふべんは氣きの毒どくながら顧かへりみに暇いとまあらず。其便そのべん不便ふべんは暫しばらく攔さしき、兎とに角かくに日輪にちりんは本もとなり、月つきは附つきものなり。附つきものを當あてにせずして、本もとに由よつて曆こよみを立たつるは、事柄ことがらに於おいて正ただしき道みちといふべし。

大陰曆たいゝんれきは月つきを目當めあてにして定さだめたる曆こよみの法はふなり。月つきは此地球このちきうの周ま

圍はりを廻まはるものにて其その實じつは二十七日と八時ときにて一廻ひとまはりすれども、  
 日ひと地球ちきうと月つきとの釣合つりあひにて丁度ちやうど一ひとまはり廻まはりして本もとの處ところに歸かへるには  
 二十九日と十三時ときなり。大陰曆たいいんれきは毎月まいげつ十五日の夜よに圓まるき月つきを  
 見みる趣しゆかう向むかふなれども、右みぎの二十九日と十三時ときを十二合あはせて十二箇か  
 月つきとして三百六十五日に足たらず、即すなはち月つきは既すでに十二度地球どちきうの周ま  
 圍はりを廻まはりたれども、地球ちきうはいまだ日輪にちりんの周圍まはりを一ひとまはり廻まはせざる  
 なり。此差凡二年半このおよそはんあまり餘あまりにして一月計ばかりなるゆゑ、其時そのときに至いたり  
 閏月しゆんげつを置おき十三ヶ月を一年となし、地球ちきうの進すすんで本もとの處ところに行ゆきく  
 付まつを待まちなり。又またこれを譬たとへばあらまし三百六十五文拂はらふべき借しや  
 金きんを、毎月まいつき二十九文五分ぶづの濟口すみくちにて十二箇月か拂はらへば一  
 年およそに凡およそ十一文ふそくづの不足ふそくあり。十一文ふそくづ、二年半はんあま餘とゞこふりも滯たらば大

いてい 抵三十文計りの引負となるべし。閏月は即ちこの三十文

の引負を一月にまとめて拂ふことゝ知るべし。右の次第にて大

陰曆は春夏秋冬の節に拘らず、一年の日數を定るものなれ

ば去年の何月何日と、今年の其日とは唯唱のみ同様なれ

ども四季の節は必ず相違せり。故に入梅、土用、彼岸などゝて農

業の節は一々曆を見ざれば叶はぬことなれり。且又これまで

の曆にはつまらぬ吉凶を記し黒日の白日のとして譯もわからぬ

日柄を定たれば、世間に曆の廣く弘るほど、迷の種を多く増し、

或は婚禮の日限を延し、或は轉宅の時を縮め、或は旅立

の日に後れて河止に逢ふもあり。或は暑中に葬禮の日を延

して死人の腐敗するもあり。一年と定めたる奉公人の給金は



十二箇月あひだの間にも十兩、十三箇月あひだの間にも十兩なれば、一箇月は  
 たゞ奉公ほうこうするか、たゞ給金きうきんを拂ふか、何れにも一方ほうの損そんなり。  
 そのほかふつがかぞふいとま、其外の不都合ふつが計るに違いとまあらず。是皆大陰曆こねなたいの正たゞしからざる處ところ  
 なり。  
 右の次第みぎにて此度大陰曆このたびたいを改めて大陽曆たいやうれきと爲なし俄にはかに二十七  
 日の差さを起おこしたれども少しも怪むあやしに足たらず。事實じつつの損そんにもあらず、  
 とく徳にもあらず、千萬歳のちの後に至いたるまで世よの便利べんりを増ましたるなり。  
 すべひとと物事ものごとに心こころを留とどめ、世よに新あたらしき事ことの起おこるこ  
 とあらば、何故なにゆゑありて斯かる事ことの出來できしやと、よく其本そのもとを詮せん  
 索くせざるべからず。其本そのもとの由縁いはれをさへ辨わきまれば如何いかなる新奇しんきな  
 事ことにても怪むあやしに足たるものなし。此度このたびの改曆かいろきにても其譯そのわけを

知らずして十二月の三日が正月の元日ぐわんじつになると計りばかいふて、  
 夢中むちゆうにこれを聞き夢中むちゆうにこれを傳つたへなば實じつに驚おどろくべき事ことなれども、  
 平生へいぜいより人の讀よむべき書物しよもつを讀よみ、物事ものごとの道理だうりを辨べんじてよ  
 く其本そのもとを尋たづぬれば少すこしも不思議ふしぎなる事ことにあらず。故ゆゑに日本國にっぽんこくち  
 中の人民じんみん此改曆このかいかれきを怪あやしむ人は必むがくず無學文盲もんまうの馬鹿者ばかものなり。  
 これを怪あやしまざる者ものは必かならず平生學問へいぜいがくもんの心掛こゝろがけある知者ちしやなり。  
 されば此度このたびの一いち條ぢゆうは日本國にっぽんこくちゆう中の知者ちしやと馬鹿者ばかものとを區別くべつす  
 る吟味ぎんみの問題もんだいといふも可かなり。

地球ちきうの舞まひながら日輪にちりんの周圍まはりを廻まはる圖づ、此この道程みちのりイギリスの里法りはふ  
 にて六億里おくりあり

地球ちきうの周圍まはりに月つきの廻まはる圖づ、「い」印じるしより始はじめり「ち」印じるしに至いたる。此こ  
 のまはのまはみちみちつきつきみちかけみちかけを爲なす  
 廻まはる道みちにて月つきの盈みち虚かけを爲なす



地球の舞ながら

日輪

の周

の廻

る

此

の

道

程

イ

ギ

リ

ス

セ

日

二月

五月

七月

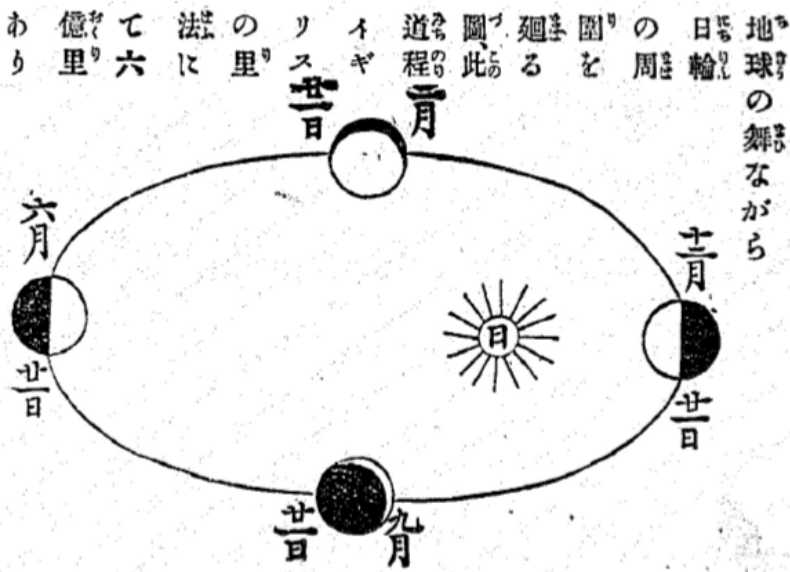
十月

九月

八月

六月

四月





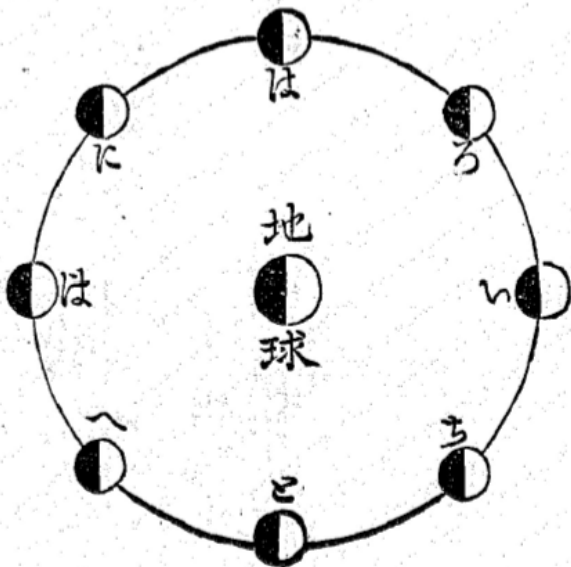
地球の周囲に

月の廻る圖



「い印より始りち印に至る。此廻る。」

道にて月の盈虚を爲す







ウキークの日の名な

西洋せいやうにては一七日をウキークと名なけ、世間せけん日用にちようの事こと、大たい抵い一ウキークにて勘定かんぢやうせり。譬たとへば日雇ひようちん賃ちんにても借家賃しやくやちにても其外物そのほかものの貸借約束かしかりやくそくの日限にちげん皆何れも一ウキークに付つき何程なにほどとて、一七日毎ひとなぬかごとに切きりを付つくること、我邦わがくににて毎月まいつき晦日そかを限かぎりにするが如ごとし。其一七日の唱左となきの如ごとし

サンデー

日曜日にちえうにち

マンデー

月曜日ぐわつ

チユウスデー

火曜日くわ

エンスデー

水曜日すい

サアスデー

木曜日もく

フライデー

金曜日きん

サタデー

土曜日ど

右みぎの如ごとく定きだめてサンデーは休きうじつ日にて、商しやう賣ばいも勤つとめも何なに事ごとも休き息うそくすることむかしの我わが邦くにの元ぐわん日じつの如ごとし。

一年なの月なの名

一年は十二わかに分わかち十二箇か月かとす其その名なと日ひの數かず左さの如ごとし。

月の名

日の數

ジャニユアリー

一月

三十一日

ヘブリユアリー

二月

二十八日

マーチ

三月

三十一日

エプリル

四月

三十日

メイ 五月 三十一日

ジユン 六月 三十日

ジユライ 七月 三十一日

アウグスト 八月 三十一日

セプテンバー 九月 三十日

ヲクトヲバー 十月 三十一日

ノベンバー 十一月 三十日

ヂセンバー 十二月 三十一日

右の如くし三月四月五月を春とし、六月七月八月を夏とし、九月十月十一月を秋とし、十二月一月二月を冬とするなり。

時計の見様

西洋にては一晝夜を二十四時に分つゆゑ、彼の一時は日本の舊半時なり。其半時を六十に分て、これを一分時（ミニウト）といふ。亦この一分時を六十に分て一「セカンド」と云ふ。一「セカンド」は大抵脈の一动に同じ。扱時計の盤面を十二に分ち、短針は一晝夜に二度づゝ廻り、長針は二十四度づゝ廻る仕掛にせり。先づ正午又は夜半十二時を本とし、この時には短針も長針も正しく重り合て十二時の所を指す。これより段々、右の方へ廻り短針の一時を指すときは、長針は盤面を一周して六十分時を過ぎ、又十二時の處に戻り、これより亦次第に進み短針の一時と二時との間に來るときは、長針も盤面を半分廻りて三十分時を過ぎ、丁度六時の

所ところに來きたり。故ゆゑに時とき計けいを見みて時ときを知しるには先まづ短たん針しんの指さす所ところを見  
 て、次つぎに長ちやう針しんの居ゐる所ところを見みるべし。譬たとへば短たん針しんの指さす所ところ、  
 九じ時じと十じ時じとの間あひだにして長ちやう針しんの指さす所ところ、二じ時じの處ところなれば九じ時じ  
 過すぎ十ぶん分じ時じなりと云いふことなり。又また此この短たん針しん九じ時じと十じ時じとの間あひだを  
 半なかばす過すぎて十じ時じの方ほうに近ちか寄り、長ちやう針しんも進すすんで八じ時じの所ところに來きたれば  
 此これを十じ時じ前まへ二十ぶん分じ時じと云いふ。即すなはち其その二十ぶん分じ時じとは長ちやう針しんの十  
 二じ時じの所ところに至いたる迄まで二十ぶん分じ時じあると云いふことにて、何いづれも長ちやう針しん  
 は十二じ時じを本もとにし盤ばん面めんにある六てん十かぞの點てんを計かぞへて何なん時じ何なん分ぶん時じと  
 云いふことを知しるべし。左さに示しめす時とき計けいの圖づは九じ時じ過すぎ二十ぶん三ぶん分じ時じの  
 處ところなり。

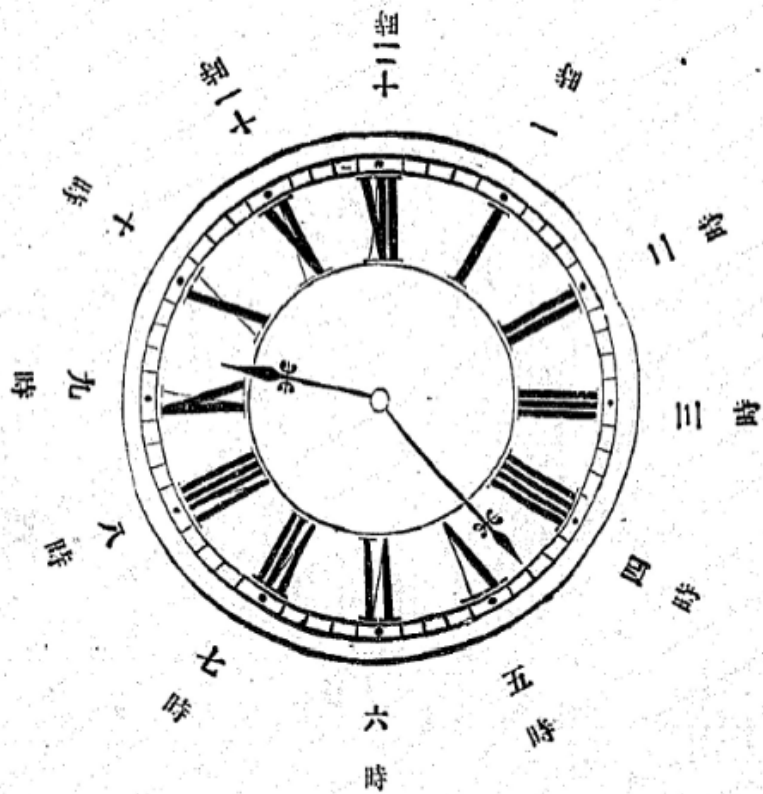


## 時計の圖





# 時 計 の 圖





# 青空文庫情報

底本：「福澤全集 卷二」時事新報社

1898（明治31）年

初出：「改暦辨」慶應義塾

1873（明治6年）年1月1日発兌

※国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>) で公開されている当該書籍画像に基づいて、作業しました

※「大陽」と「大陰」は、底本通りです。

※「閏」に対するルビの「じゅん」と「しゅん」の混在は、底本通りです。

※表題は底本では、「改暦辨《かかれきべん》」となっています。

※変体仮名は、通常の仮名で入力しました。

※誤植を疑った箇所を、「改暦辨」慶應義塾、1873（明治6年）

年1月1日発兌の表記にそって、あらためました。

入力：田中哲郎

校正：高橋征義

2018年12月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 改曆辨

福澤諭吉

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>